

平成 16 年度後半の動き

全国大会は9月15日無事に終えることができました。本当にありがとうございました。幾つかの試みがありました。みんなが話し合える環境にするための椅子の配置、進め方、本音の話ができるためのテーマの設定の仕方、話の深め方等いろいろな工夫をしましたが、私たちの思いが全国の技術士に伝わったと考えています。

本年度の前半は、全国大会のための準備に費やしましたが、結局ここまで4年間の活動のまとめという意味がありました。当研究会目的の明確な再認識と今後何をすればいいか、おのずと方向が出てくる機会になりました。これ等を受けて後半は、自然科学教育分科会、観光分科会、循環技術システム研究分科会の各分科会について、「実行」の活動をしなければならないと考えています。具体的には、各分科会の提案を外部の機関に向けて提言をする、相手とのやりとりの中から更に、ニーズに合った内容に充実させるプロセスが必要です。その過程の中から新しい展望が開けてくると思います。

もう一つの分科会、道州制分科会（仮称）の準備があります。今、道州制に関する動きは、今年の8月9日に「道州制特区に向けた提案の具体化について」（5ページの報告書、国に提出済み）が決定し、道内6カ所の道州制セミナーを開催中です。北海道は、道州制特区の決定を本年度中に計りたいとしています。道州制は、地域のさまざまな仕組みを変え、生活に直接影響を与える基本的な制度になりますので、技術士会としても何か役に立てないか、その方向を検討するものです。

今年度も後半分、少しずつ着実に進めていきましょう。

（文責：研究会会長 市村 一志）

自然科学教育分科会

1. はじめに

自然科学教育分科会は、総合学習などの教育サポートを通じて「北海道を元気づけるため、元気な子供を育てよう」を合い言葉に、平成12年に発足した分科会です。

2. 分科会活動内容

(1) 定例分科会

定例分科会は2カ月に1度のペースで開催しています。主に教育サポート実施報告、技術士全国大会への対応についての意見交換を行いました。

(2) 教育サポート

今年度は次の3件の教育サポートを行っております。

- 定山溪中学校 「豊平峡ダムに携わった人のお話」
- 北海道教育大学土曜講座 「橋のお話」
- 寿都町教育委員会 「自然体験サバイバルキャンプ」（地域活性化分科会と共同）

その後、次の2校よりサポート依頼が来ており、随時、実施していく予定です。

- 丘珠小学校 「地層の話」
- 江別市立対雁小学校 「校庭の樹木の話」

(3) 技術士全国大会

9月15日の技術士全国大会では、当分科会の担当は第1分科会「市民との協働」で、北越技術士がパネリストとして発表しました。

3. おわりに

10月に昨年にも実施した合宿（宴会）を予定しております。次号にご報告したいと思います。

（文責：分科会幹事 大谷 高志）

観光分科会

観光分科会は現在22名が参加し、勉強会を重ねていますが、今年は、「地域に出よう」をテーマにしています。

1. 観光分科会の発表

第31回技術士会全国大会で、第1分科会は「市民との協働」をテーマに頂きました。観光は非常に間口が広く様々な課題がありますが、今回、以下の4つの話題を中心に発表しました。

- 沿道の住民や担い手の暮らしが見える観光ネットワークと拠点づくり
- 物語やテーマのあるドライブルート
- 情報と活動の拠点づくり
- 「道の駅」でのビジネス創出

本来、観光振興は、来客者のためはもちろん、地域の主役である住民が地域の魅力を再発見できる、地域づくりに参加できる、ビジネスチャンスが生まれる、大都市にはない魅力を誇りにできる、……そんな地域づくりを目指したいものです。

2. 技術士の役割について

勉強会を通じて、既に、それぞれの地域で沢山の皆さんがチャレンジされている事を改めて知りました。

こうした努力に学び、長期的な視点で、専門家の立場から支援できることがないか考えていきたいと思えます。

中長期的な観光政策として本気で取り組むには道路・農業などの事業支援はもちろん、沿道の市町村、住民、担い手企業などを巻き込んだ産業支援政策として総合的に実施することが必要です。

私たち技術士も、積極的に「地域に出て」、地域と協働し、プロジェクトの成功事例を増やしていくことが必要と考え、以下の3つの行動目標を提案しました。

- 地域・住民の立場にたって足元を見直す
- 自ら提案・行動・実現する
- 担い手となる地域・住民と協働する

(地域に役立つプロジェクトを自ら探し、提案・行動し、地域の担い手や、さまざまな分野の技術者の

協力を得て、実現への道を模索する。)

3. 分科会への会員募集

今後、観光分科会の活動に参加希望のかたは、会合の案内を差し上げますので、以下にメールでお知らせください。

メールアドレス hiasa@noastec.jp

(文責：分科会幹事 日浅 陽富)

循環技術システム研究分科会

1. 最近の活動

循環技術システム研究分科会は、有機質廃棄物の循環にテーマを絞り提言のまとめに取り組んできましたが、このたび「循環型北海道を目指して」と題した提言を完成させることができました。早速、札幌の市民団体(家庭の生ゴミの循環を目指している団体)を招き、提言の概要の発表会も実施いたしました。提言には有機質廃棄物処理に関する新技術なども盛り込んでおりますので、発表会の参加者の中には興味を持たれた方も多く、それらの技術に対する活発な質疑応答ができました。我々の目指している提言の効果が多少なりとも出始めていると感じました。

提言は技術士全国大会ではFDの形式にて配布いたしました。また近日中には支部のホームページの担当欄にも掲載したいと考えております。今回の提言は我が分科会にとって初めての成果品です。全国大会に向けて多少駆け足で完成させた経緯がありますので、言葉足らずの部分や間違った表現もあるかもしれません。

ご意見やご指摘をいただければ幸いです。

2. 今後の活動

一段落の一服をはきんで、新たな研究テーマを決定し活動を再開したいと考えております。また完成した提言の発信も同時に行ってゆきます。地方都市などを訪ね、見学会を兼ねた意見交換会などの実施も楽しいのではないのでしょうか。観光分科会と同様に、参加ご希望の方はご連絡ください。

メールアドレス:j_nagase@ikedan.co.jp

(文責：分科会座長 永瀬 次郎)